

氏名	出口 二郎
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第3038号
学位授与の日付	平成8年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Sex hormone-dependent renal cell carcinogenesis induced by ferric nitrilotriacetate in wistar rats. (鉄トリロ3酢酸により誘発される腎細胞癌は性ホルモン依存性である)
論文審査委員	教授 赤木 忠厚 教授 榎野 博史 教授 大森 弘之

学位論文内容の要旨

鉄トリロ3酢酸(Fe-NTA)により誘発される腎臓の脂質過酸化の程度、部位及び腎細胞癌の発生率には顕著な雌雄差(雄>雌)が認められ、脂質過酸化については性ホルモン依存性である(testosteroneは脂質過酸化を増強し、estradiolは抑制する)ことが確かめられている。今回はFe-NTAにより誘発される腎細胞癌の発生率と性ホルモンとの関連について検討した。実験には4週齢のウイスター系ラットを用い、動物を雌雄各5群に分けた;1群) Sham+トリロ3酢酸(NTA)投与、2群) Sham+Fe-NTA投与、3群) 去勢または卵摘+Fe-NTA投与、4群) 去勢または卵摘+Fe-NTA+Testosterone投与、4群) 去勢または卵摘+Fe-NTA+Estradiol投与。手術後4週目よりNTAまたはFe-NTAを12週間腹腔内投与し、さらに性ホルモン(1-3群には対照としてゴマ油)を約1年間筋肉内投与した後、腎臓の腫瘍発生を病理組織学的に検索した。その結果、1群)では雌雄共腫瘍発生は認められず、Fe-NTAを投与した2-5群)で腎細胞癌の発生が見られた。腎細胞癌の発生率はTestosterone投与あるいは卵摘で上昇し、Estradiol投与あるいは去勢で低下する傾向が認められ、Fe-NTAにより誘発される腎細胞癌の発生は性ホルモン依存性であることが判明した。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査結果の要旨

本研究は鉄トリロ3酢酸(Fe-NTA)によりラットに誘発される腎細胞癌の発生率と性ホルモンの関連について検討したものであるが、従来明らかにされなかったFe-NTA誘発腎細胞癌発生の性ホルモン依存性を証明したのものとして価値ある業績であると認める。よって本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。